

京都嵯峨

KYOTO SAGA

芸術大学

UNIVERSITY OF ARTS

広報

PUBLIC RELATIONS

VOL.9

AUGUST 2004

Contribution

嵯峨天皇と弘法大師の出会い

学校法人大覚寺学園理事長 坂口博之

嵯峨野から芸術文化の新しい響きを

京都嵯峨芸術大学学長 三好郁朗

Special Feature

伝統と未来をつなぐ

森原キャンパス「有響館」開設記念事業



News

平成15年度決算
完成年度の実地審査
大学院設置を申請
科研費補助金の採択

Topics

在学生の活躍
イベント企画が実現
附属博物館
第6回企画展が開幕
学生行事
学生交流イベント
行事
愛宕古道街道灯し
著書紹介
附属ギャラリー
「アートスペース嵯峨」
油画4回生展 / 工房しょうぶ展
特別講座
「シンプルでクリエイティブなもの」「遊びとデザイン」「アートとデザイン / 現在進行中のプロジェクトをめぐって」



Information

入試関連情報
京都嵯峨野文化サロン
第三回企画「京の美意識を創り出した『古今和歌集』と『新古今和歌集』にみる雅の世界」
公募展のおしらせ
YOUバックアートコンペ2004
アートスペース嵯峨スケジュール
専任教員展覧会情報



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS

京都嵯峨芸術大学建学の基本理念は、嵯峨天皇と弘法大師のご高誼に発すると私は思っている。

大同元年(806年)10月、入唐求法を終えた空海は、九州太宰府に帰朝する。東支那海の船上で空海は、桓武天皇の崩御を知る。桓武天皇(山部親王)の後をうけ、平城天皇が即位する。

しかし、平城天皇(安殿親王)は、ようやく完成した平安京を捨て、たった3年足らずの在位で皇弟、嵯峨天皇(賀美野親王)に譲位する。この譲位はご病弱のためとされているが、「にわか

言って過言でない。」と述べている通り、世界の最先端の情報を持ち帰った。

しかし、20年滞在しなければならぬところ、3年足らずで帰国した罪は万死に値すると入洛が許されなかったという。だが、実のところは、薬子の乱の起こる情勢が潜在していたこと、つまり、嵯峨天皇とその兄、平城天皇との確執が主要な要因だったのではないか。

大同四年(809年)9月、新しく帝位についた嵯峨天皇から、帰朝した弘法大師にお招きがあった。大師帰朝されて3年目のことである。失意のそこにあった弘法大師は、嵯峨天皇のお声がけをどれほど喜ばれたであろうか。これが嵯峨天皇と弘法大師の出会いである。

嵯峨天皇は、早くから入唐した弘法大師に

嵯峨天皇と弘法大師の出会い

坂口博之 ●学校法人大覚寺学園 理事長

通り、政治的背景が動いていた。

藤原仲成、薬子兄妹の謀議で、平城上皇に政権を戻そうとする企て、いわゆる薬子の乱が弘仁元年(810年)に起こる。嵯峨天皇の動きは機敏であった。仲成は捕らえられ斬首、薬子は毒をあおって自殺、乱は平定された。

弘法大師と一緒に入唐した最澄の資格は短期滞在の還学僧であった。弘法大師の資格は、20年間、唐で仏教を学ぶ留学僧である。にもかかわらず、大師はたった3年足らずの滞在で帰朝した。

藤本義一氏が「唐の僧侶が、取得するのに30年以上かけて取得する情報を(宗教に関わらず、寺の経営方法、地質学から天文学まで)空海は3年足らずで集めたのである。九世紀の精神的情報と運営的

情報をもち帰り実施していく。中世のインターネットの開祖と注目されていたことが伺える。お会いになってのお尋ねは、密教のことではなく、文人、書家としての見解をお尋ねになったと聞く。きわめて個人的な親近感をもったご交誼ではじまっている。このご交誼の心意気が、大覚寺のご中興、後宇多天皇(1307年)、最後の宮門跡有栖川宮慈性法親王(1837年)に脈々と息づいている。

この度新しく建立された新学舎、有響館に嵯峨天皇と弘法大師のご尊像をお祀りしている。弘法大師に世界の最先端の文化的情報をお尋ねになる嵯峨天皇のお姿を感じ、お二人の世界に向けた心意気を志として、京都嵯峨芸術大学の学生が世界に羽ばたく芸術家に成就されることを願う。

Contribution

芸術学部が初めて卒業生を送り出すというこの記念の年に、^{ふしはら} 森原キャンパス「^{うきょうかん} 有響館」が開設の運びとなりました。理事長をはじめ、理事会、評議会のご理解のたまものです。計画から完成まで、大変な量の作業と懸命に取り組んでくれた学内外のみなさんに、深甚の謝意を表します。2004年10月には完成披露行事をはじめ、一連の記念事業を予定していますが、これを機会に、本学の教育がどこを目指しているか、社会にどう貢献しようとしているか、学内だけでなく広く社会に知ってもらいたいと願ってのことです。新学舎を「有響館」と名づけたのも(弘法大師の「五大皆有響」から戴きました)まさに、歴史と文化の地、嵯峨野に出現したこの瀟洒な新館が、さまざまな文化情報を集めては発

そして第3の条件が、本学がさらなる発展をめざすためには、地域に開かれ、地域から必要とされる大学にならねばならない、有響館をぜひそのシンボルにしたいということでした。世界有数の長寿国となったわが国は、だれもが生涯を通じて、好きなときに好きなことを学べる、そういう教育立国にならなければならない。そのためにも、これからの大学は、その知的資源や施設を地域社会に有効に提供できる、開かれた大学でなければならないでしょう。まして本学には観光デザイン学科があり、大学教育を地域社会の活性化に結びつける、まさに実践的教育を行っているのです。ここ嵯峨野は本学を核とした一大文化ゾーンであると、そう思ってもらえるような活動の展開が、今後の本学の課題だと

嵯峨野から芸術文化の新しい響きを

三好郁朗 ●京都嵯峨芸術大学 学長

信する「有響」の拠点となってくれることを祈念するからであります。

新館建設にあたっては、学内にプロジェクトチームを置き、3つの条件をつけて基本設計をお願いしました。その1は、本部キャンパスにおける実習スペースの拡充であり、法規が許す限り、精一杯の床面積確保に務めてもらいました。条件の2は、学生諸君がさまざまな目的で自由に使える空間を確保することでしたが、こちらはメインフロアを「学生情報フロア」とすることで実現しました。今後どのように活用するか、ぜひ学生諸君のアイデアを活かしてほしいと思います。加えて、従来の就職課を「キャリア支援センター」と改め、新館に移設しました。今後の大学運営にとって、就職・進学といった学生諸君のキャリア支援こそ、学生募集対策と並ぶ2本の大きな柱になると考えています。

思います。新棟に附属図書館を移転し、地域の人々の利用を勧めるとともに、児童書コーナーを新設するというアイデアもそこから生まれました。学生諸君の制作した絵本やマンガを地域の子供たちが読むというシーンを、今から楽しみにしています。

なお、4階の大講義室(G401教室)に、大覚寺からご寄贈いただいた、嵯峨天皇と弘法大師の尊像をお迎えしました。お二方の御高誼については、理事長が詳しく解説してくださいました。「学校法人大覚寺学園教育憲章」にも謳われているように、嵯峨天皇は大覚寺の始祖として、弘法大師は宗祖として、ともに深い信仰と敬仰の対象であり、本学園における教育の精神的バックボーンでもあります。毎月1回、法要が行われますので、有志のみなさんの参加をお勧めします。

伝統と未来をつなぐ

大いなる期待を込めて

学校法人大覚寺学園は、1971年に嵯峨美術短期大学を設置して以来、2001年4月には四年制の京都嵯峨芸術大学を設置。これに伴い嵯峨美術短期大学を京都嵯峨芸術大学短期大学部と名称変更し、コース再編ならびに教養内容の刷新を行いました。

そして2004年、京都嵯峨芸術大学は完成年度を迎え、来春には第一期生を送りだすこととなります。短期大学の卒業生は10,000名を超え、優れた人材が国内外のさまざまな分野で活躍し、高度社会の発展に寄与しています。

現在、京都嵯峨芸術大学大学院の2005年度開設をめざして準備が着々と進んでおり、本学園が芸術系高等教育機関として、地域の文化的発展に深く貢献し、産官学連携の拠点となって機能することがさらに期待されています。

その拠点となるべく、2004年4月、新たに「森原キャンパス」を開設し、地上4階地下1階建ての「有響館」を建設。在学生はもとより、地域の誰もが利用できる、最新情報の収集の場、交流・憩いの場として、10月に正式オープンします。

嵯峨野から世界へ

森原キャンパス「有響館」の開設を記念して、「伝統と未来をつなぐ」をコンセプトに、今秋から、国際的・先端的事業、国際的・伝統的事業を推進していくこととなりました。

Exhibition of Jeffrey Shaw

「FUTURE VISION」

メディアアート界の中心的存在として世界的に知られる、ジェフリー=ショウ氏を迎え、国際シンポジウムを行います。また、展覧会には、鑑賞

者自身が作品の中に入り込み、自らが行動して作品の成立に立ち会う「シネマ」と呼ばれる斬新な映像作品が登場します。



シンポジウム「Prospect of Interactive cinema ~ インラクティブシネマの可能性 ~」

日時 / 2004年11月27日(土) 13:00 ~

会場 / G401教室(森原キャンパス有響館4F)

講師 / ジェフリー=ショウ オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学インタラクティブシネマ研究所所長、伊藤俊治 東京藝術大学先端芸術表現科教授、松本泰章 本学芸術学部造形学科助教授、他

メディアアート インсталレーション

「LOOK UP KYOTO 2004」

会期 / 2004年11月27日(土) ~ 12月11日(土)

時間 / 10:00 ~ 18:00

会場 / 講堂(本部キャンパス講堂棟4階)

「伝統文化の再生」

芸術学部造形学科日本画分野の古画研究工房が中心となって進めている、台南市(台湾)の興濟宮及び王家宗祀の扉絵復原模写の完成を見越して国際シンポジウムを開催します。東アジアの古建造物壁画および扉絵の保存と修復に関する問題点を明らかにし、伝統的な東洋画技法を研究する活動の意義を探ります。

シンポジウム「東アジアにおける古建造物彩色・壁画の保存と修復」

日時 / 2004年11月28日(日) 9:30~17:00
会場 / G401教室(森原キャンパス有響館4F)
講演 / 10:00~15:00(各自約30分ずつ)
10:00~鄭明水 台湾国立文化資産保存研究中心籌備處研究員、10:40~傅朝卿 台湾国立成功大学教授、11:20~金京變 韓国丹青技術者、12:00~蘇伯民 敦煌研究院保護所副所長兼福研究員、14:00~櫻井敏雄 近畿大学教授
パネルディスカッション「建造物彩色・壁画を取り巻く今日的課題」/ 15:00~16:30
鄭明水、傅朝卿、金京變、蘇伯民、櫻井敏雄、村田健一 文化庁文化財保護建造物課主任調査官、窪寺博 奈良文化財研究所文化遺産研究部建造物研究室長、山内章(財)元興寺文化財研究所室長、本学非常勤講師、村松裕美 修復研究所21研究員、仲政明(有)川面美術研究所研究員、本学非常勤講師、山村高淑 本学芸術学部観光デザイン学科専任講師、箱崎睦昌 本学芸術学部造形学科教授
(財)福武学術文化振興財団助成



「伝統の継承 - 京の美意識 - 」

古都・京都で培われた、独特の知恵や美意識、自然や歴史にはぐくまれた巧みの技にふれる連続講座です。各分野で活躍されている方々を講師に迎え、伝統的な工芸や芸能に関する講演と実演を行います。

会場 / G401教室(森原キャンパス有響館4F)

第1回『京の仏像』

日時 / 2004年10月16日(土) 12:00~

講師 / 長谷法寿 仏師

第2回『京人形』

日時 / 2004年12月11日(土) 14:00~

講師 / 岡本潤三(面屋庄甫) 京人形作家

第3回『京の織』

日時 / 2005年1月22日(土) 14:00~

講師 / 北村武資 「羅」「経錦」重要無形文化財保持者

第4回『京の染』

日時 / 2005年2月26日(土) 14:00~

講師 / 森口邦彦 京友禅作家

第5回『京の祝事』

日時 / 2005年3月26日(土) 14:00~

講師 / 源田善朗 元源田紙業株式会社社長

第6回『京の着物』

日時 / 2005年4月23日(土) 14:00~

講師 / 羽田登 京友禅作家

第7回『京の笑』

日時 / 2005年5月21日(土) 14:00~

講師 / 茂山あきら 大蔵流狂言師

以上の国際シンポジウム、展覧会、連続講座に関して、参加を希望される場合や詳細についてご質問がある場合は、森原キャンパス「有響館」開設記念事業委員会までお問合せください。

(京都嵯峨芸術大学企画広報課 内)

〒616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL075 864 7859 FAX075 882 7770

info@kyoto-saga.ac.jp

また、この他にも、関連事業としてさまざまな催しを実施します。

附属博物館第7回企画展「嵯峨からの発信」

10月16日(土)より開催予定。

公募展「YOUパックアートコンペ2004」詳細は本誌8ページをご覧ください。

「アジア太平洋生物多様性保全子ども会議 京都シンポジウム」8月16日(月)、有響館G401教室で開催。

平成15年度決算

平成15年度決算が、平成16年5月28日(金)の理事会・評議員会にて報告、承認されました。資金の流れを表す資金収支計算は、以下の表の通りです。

収入の部では、芸術学部が3年目を迎えて収容人数が増えたことによる学生生徒納付金の増収、前受金収入の増額、また、志願者減による手数料収入の減額などが特徴です。その他、当該年度のみ特別な収入として、萩原キャンパス「有響館」開設に伴う借入金6億円が計上されています。寄付金は、新入生の保護者の方々へお願いしており、5,800,000円のご支援をいただきました。以上、資金収入の合計額は、当初予算より約18%増、95,710,000円の増収となっています。

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,802,355,000	人件費支出	1,189,381,657
手数料収入	40,017,714	教育研究経費支出	315,597,569
寄付金収入	5,880,000	管理経費支出	200,938,917
補助金収入	149,480,297	借入金等利息支出	56,066,222
資産運用収入	23,635,958	借入金等返済支出	173,940,000
資産売却収入	0	施設関係支出	825,496,260
事業収入	11,949,800	設備関係支出	50,766,762
雑収入	107,400,710	資産運用支出	50,000,000
借入金等収入	600,000,000	その他の支出	42,574,263
前受金収入	816,300,000	[予備費]	0
その他の収入	162,020,098		
資金収入調整勘定	- 809,465,947	資金支出調整勘定	- 39,314,851
前年度繰越支払資金	2,445,835,495	次年度繰越支払資金	2,489,962,326
収入の部合計	5,355,409,125	支出の部合計	5,355,409,125

科研費補助金の採択

文部科学省の平成16年度科学研究費補助金に、本学から申請したうちの2件が採択されました。

採択されたプロジェクトは、芸術学部造形学科箱崎睦昌教授を研究代表者とする「東アジアにおける寺廟建造物壁画

支出の部では、退職金支出を含む人件費が帰属収入の50%以上を占めています。ここ数年、50%以上で推移していますが、綿密な将来計画を基本とする効率的な人事政策が今後の重要な課題として挙げられます。教育研究経費については24%程度の支出となっており、これは、ほぼ全国的な平均値です。

平成15年度については概ね予算通りの執行であったと思われませんが、本学における収入の90%は、学納金と補助金によるもので、新たな収入源として、微増ながら生涯学習講座等の地域貢献事業等があるものの、積極的な事業推進による収入源確保が、今後ますます重要となってくると考えます。

及び扉絵の復原模写と保存修復に関する研究」と、芸術学部観光デザイン学科山村高淑専任講師を研究代表者とする「中国の歴史的市街地・集落における持続可能な観光開発のあり方に関する研究」です。

完成年度の現地審査

平成16年度(平成17年3月)に完成年度を迎える京都嵯峨芸術大学への文部科学省による寄附行為関係および設置関係の現地審査が行われました。

大学設置認可後、健全な経営ができていないか、教学上の問題はないか等、運用状況を現地にて調査することが定められており、平成16年6月8日(火)に寄附行為関係、同25日(金)に設置関係といったスケジュールで実施されました。

審査官による、理事長・学長をはじめとする大学関係者への面接審査の後、学内の施設見学等が行われ、特に、25日の設置関係の調査では、在学生へのインタビューも盛り込まれ、大学の状況についての聞き合わせが行われました。両日ともに留意事項もなく無事終了いたしました。

大学院設置を申請

平成17年4月の開設をめざす京都嵯峨芸術大学大学院に関して、平成16年6月23日(水)と同29日(火)の2回にわけて文部科学省へ設置認可の申請書類を提出し、無事受理されました。平成16年12月の認可に向けて、さらに具体的な整備に取りかかることとなります。

この大学院は、芸術学部を基礎としながら、「社会状況に対応した高度な教育・研究」、「専門領域での高度な研究と分野横断・融合による新たな芸術表現の研究」を設置の趣旨としています。申請している芸術研究科芸術専攻は、二年制の修士課程とし、絵画分野・複合分野・観光デザイン分野を設け、定員を1学年8名とする予定です。

在学生の活躍

イベント企画が実現

昨年、「100万円で作る自遊空間コンペ」(大阪府堺市文化振興財団主催)で佳作を受賞した、芸術学部観光デザイン学科3年生北山めぐみさんの企画案「LET STAY トリップ～古墳時代の風を感じよう～」が、市民フェスティバル「第10回堺ハートフルランド」を彩る特別企画「仁徳古代村」として、2004年5月5日(水・祝)に実施されました。

制作・運営スタッフとして観光デザイン学科の1～4年生40名程が有志として参加し、ゲーム等を通して楽しく古代体験ができる空間を演出しました。

附属博物館

第6回企画展が閉幕

2004年4月1日(木)から開催していた第6回企画展「草原の国『モンゴル』の造形・異文化を知るⅠ-」が、6月30日(水)に無事終了し、77日にわたる開館期間中、1804名の来館がありました。

今回の企画展は、附属ギャラリーとの同時展示、学生食堂や附属図書館における関連イベントなど、大学全体でイメージをつくり上げる、横断的な展覧会となり、学内外から大変好評をいただきました。

附属ギャラリー 「アートスペース嵯峨」

油画4回生展

芸術学部造形学科油画分野の4回生による展覧会を6月1日(火)～4日(金)に開催し、4年間の集大成である卒業制作に向けての試作として制作した作品を展示しました。

学生行事

学生交流イベント

学友会の企画・主催で行われる学生同士の交流イベントが活性化しています。

今年度前期には、新入生歓迎祭として「球技大会」を4月17日(土)に開催したほか、6月30日(水)には高校時代の制服を着て参加する「制服パーティー」、7月14日(水)には浴衣姿で出店やゲームを楽しむ「夏祭り」が企画されました。

行事

愛宕古道街道灯し

京都・愛宕山に登る起点の町、奥嵯峨鳥居本町で8月23日(月)・24日(火)に行われる催し「愛宕古道街道灯し」へ、柴田潤教授(短期大学部美術学科)による指導のもと有志の学生たちが制作に取り組んでいる巨大提灯が彩りをそえます。

ほのかな灯りから浮かび上がる旧街道の風情を、ぜひお楽しみください。

著書紹介

学校法人大覚寺学園の坂口博之理事長が、著書「大童」を出版されました。嵯峨天皇と弘法大師についてはもちろん、本学園についても書かれています。別格本山覚勝院(TEL 07 5 881 5788)から発行、価格は1500円です。



工房しょうぶ展

6月8日(火)～6月20日(日)に、知的障害者厚生施設菖蒲学園内「工房しょうぶ」(鹿児島市)の作品展を開催しました。知的障害を持つ園生たちの手による木工・陶芸・織り・刺繍等の作品を展示し、観るものに思いがけない才能との出会いを提供しました。なお、同時企画として6月15日(火)には特別講座も実施しました。

特別講座

「シンプルでクリエイティブなもの」

6月15日(火)に開催した短期大学部美術学科(生活デザイン)主催による特別講座では、知的障害を持つ個人の表現をアートとして捉え、その可能性を引き出す活動に取り組みされている福森伸氏(知的障害者厚生施設菖蒲学園施設長)を講師に迎え、知的障害者による芸術活動等について語っていただきました。

「遊びとデザイン」

短期大学部美術学科(インテリアデザイン)主催のもと、ドイツから造形作家のペア＝クラ＝セン氏を招き、6月26日(土)に特別講座を行いました。ネフ社(スイスの木工玩具企業)の構成玩具等で世界的に知られる氏が実際にデザインした作品を用いながら、造形表現をする上で重要な要素についてレクチャーいただきました。



「アートとデザイン / 現在進行中のプロジェクトをめぐって」

6月29日(火)に開催した芸術学部造形学科主催による特別講座では、美術・デザインのそれぞれ第一線で活躍されている川俣正氏(美術家)と加藤淳氏(デザインプロデューサー)を迎えて、両氏の作品紹介やその制作過程、創作に対する考え方が、学生からの質問を受けながらの対談形式で展開しました。



入試関連情報

各種イベントを右記のとおり実施します。その他にも全国各地で開催される進学相談会等への参加を予定しています。

なお、「大学案内2005年度版」をご希望の方は、入試課までご請求ください。

TEL 075 864 7878 FAX 075 881 7133
nyush@kyoto-saga.ac.jp

オープンキャンパス		
8/1(日)~3(火)	10:00~17:00	京都嵯峨芸術大学
9/19(日)	10:00~17:00	京都嵯峨芸術大学
実技・小論文講習会(岡山)		
9/23(木・祝)	受付12:30~12:50	第1セントラルビル
	講習13:00~16:00	
	合評16:00~17:00	
入試直前実技・小論文講習会/相談会		
10/11(月・祝)	12:00~	京都嵯峨芸術大学
12/18(土)	12:00~	京都嵯峨芸術大学

公募展のお知らせ

YOUバックアートコンペ2004 「What do you pack?」

「ゆうバック」に作品を箱詰めして応募する、ユニークな公募展を開催します。

ゆうバックの中に新しい可能性を詰めると同時に、バックすることの意味をも問いかけます。どこへでも手軽に発送できるネットワークから現代の美意識や社会への視点が浮かび上がってくるでしょう。

グランプリには賞金50万円が贈られる他、多数の賞が用意されています。応募締切は10/20(木)。11月には附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」で応募作品による展覧会も開催します。詳細は本学WEBサイト、ポスター、雑誌等でお知らせしています。

[YOUバック・アートコンペ係]

TEL 075 864 7860(直)

FAX 075 881 7133

artspace@kyoto-saga.ac.jp

アートスペース嵯峨スケジュール

- 7/13(火)
「造形基礎展」
- 7/14(水)~7/17(土)
「専攻科ドローイング展」
- 7/20(火)~7/25(日)
「芸術学部日本画4回生展」
- 7/31(土)~8/8(日) 予定
「陶芸・染織専攻科展」
- 9/21(火)~9/26(日)
「イラストレーション標準コース04前期習作展」
- 9/28(火)~10/1(金)
「油画3回生夏休みの課題展“summerworks”」
- 10/5(火)~10/10(日)
「活き粋倶楽部展」
- 10/12(火)~10/24(日) 月曜休館
「日本画作品展」(期間中作品入替有り)
- 10/26(火)~10/31(日)
「JAGDA新人賞展」

会期・展覧会名は変更する場合がございますので、ご了承ください。

■ 京都嵯峨野文化サロン

第三回企画

「京の美意識を創り出した『古今和歌集』と『新古今和歌集』にみる雅の世界」

本学と旧嵯峨御所大本山大覚寺が連携して、自然と文化の調和する嵯峨野の伝統を探り、新たな魅力を発見し、さらには現代人の美意識にあった新しい文化や芸術を創造して、この地“嵯峨野”から発信していくことをめざし、2002年に開設した「京都嵯峨野文化サロン」の第三回企画を今秋開催します。

来年は『古今和歌集』成立から1100年、『新古今和歌集』は800年という記念すべき年を迎えます。源平動乱という激動の最中に編まれた両勅撰和歌集は、日本特有の情感溢れる世界を展開しています。

今回、福嶋昭治氏による講演「古今集の和歌、平安時代の和歌」と阿武野達世氏による演奏で、その雅な世界を再現します。大覚寺の幽玄な夜景の中で繰り広げられる和歌の美しい世界を、どうぞお楽しみください。

日時...2004年10月2日(土)17:30~19:30

会場...旧嵯峨御所 大本山大覚寺

定員...200名(先着順)

参加費...2,000円(大覚寺ならびに祇王寺の当日拝観料込)

お申込み...往復はがきに、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢を明記の上、9/1(水)~9/15(水)の期間内必着で京都嵯峨野文化サロン事務局まで郵送してください。なお、往復はがき1枚につき、原則1名のお申込みとなります。(ただし、同行者のある場合は、同行者の氏名も併記してください。)

京都嵯峨野文化サロン事務局

(京都嵯峨芸術大学 学術推進課内)

616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1

TEL 075 864 7898 FAX 075 882 7770

gakuju@kyoto-saga.ac.jp

■ 専任教員 展覧会情報

6/1~7/31	二科選抜作家ニューヨーク展	ファンデーションギャラリー、他(USA)	瀧澤賢福 混合表現、入佐美南子 油画
7/6~7/11	日本新工芸展	京都市美術館(京都)	吉水絹代、辻信夫、他 染織
7/6~7/18	心に響く小品展	ギャラリーヒルゲート(京都)	黒川彰夫、他 洋画
7/15~8/15	Pacific Rim Art Now Japan U.S	Works Gallery(U.S.A.)	宇野和幸 油画
7/16~7/31	TEXTILE WORK EXHIBITION	ギャラリーギャラリー(京都)	奈良平宣子 生活デザイン
7/21~7/31	個展	voiceギャラリー(京都)	倉山裕昭 混合表現
7/30~9/5	日本画「京の今日」展	京都文化博物館(京都)	土手朋英、北村正己、他 日本画
8/21~9/11	ワークショップ	京都芸術センター(京都)	日野田崇 陶芸
9/1~9/16	第89回二科展	東京都美術館(東京)	黒川彰夫 洋画、入佐美南子 油画
9/1~9/8	中井浩史展	ギャラリー島田(神戸)	中井浩史 洋画
9/7~9/12	個展	ギャラリー16(京都)	日野田崇 陶芸
9/8~9/14	The Environment Art Expo KOREA 2004	COEX center(Korea)	宇野和幸 油画
9/21~9/26	個展	ギャラリー中井(京都)	平松國和 彫刻
9/21~10/3	研究室作品展	アートスペース東山(京都)	芦原祥子、大西津也子、辻信夫、吉水絹代 染織
10/7~10/10	ART Embroidery	ロンドン、他	奈良平宣子 生活デザイン
10/16~10/31	秋季創画展	東京都美術館(東京)	土手朋英、他 日本画

会期、展覧会名、会場、出品者の順に記載。なお、内容は変更される場合がございますのでご了承ください。非常勤教職員情報は本学のWebサイトをご覧ください。

京都嵯峨芸術大学広報

第9号

2004年8月3日発行

編集 京都嵯峨芸術大学 企画広報室

発行 学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

〒616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL 075 864 7859

FAX 075 882 7770

http://www.kyoto-saga.ac.jp

info@kyoto-saga.ac.jp

印刷 株式会社 ダイコウテック